

きれい 甲斐

No.34 MARCH 2006

環境パートナーシップやまなしは、県民・事業者・行政のパートナーシップ（協働）のもと、団体間の連携や情報交換の場づくりなどを通じて、自主的な環境保全活動を積極的に展開していくことを目的として様々な活動を行っています。

環境保全に関する活動を積極的に行っている団体、個人のみならずのご入会をお待ちしています。

環境パートナーシップやまなし

事務局 ● 〒400-8501 山梨県甲府市丸の内1丁目6-1 山梨県循環型社会推進課内
TEL.055-223-1506 FAX.055-223-1507 ✉junkan@pref.yamanashi.lg.jp
URL <http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/junkan/60200266375.html>

発行責任者 ● 広報専門部会長 渡辺一彦



古紙配合率100%再生紙を使用しています

映画館でのリユースカップ利用状況を報告します

当団体のごみ減量化プロジェクトチームの提案をきっかけに、甲府武蔵野シネマ5、(株)NTTドコモ山梨支店、NPO法人スペースふうのコラボレーションにより、昨年4月から毎月1回（第一日曜日）、映画館内での飲物販売時のリユースカップ使用を始め、これまでに2,561個の使い捨てカップを削減することができました。

環境配慮の取り組みとしてお客様の関心も高く、違和感なく飲物を購入され、カップの紛失や苦情などもほとんどありませんでした。その一方で、恒常的にリユースカップへ転換を図るためには、用途に対応したカップの開発（フタ、サイズ、デザイン等）やコストダウンが課題としてあげられます。

平成18年度は、段階的にリユースカップの使用を毎月2回に増やし、継続して取り組んでいく予定です。皆さんも、是非一度、映画館に足を運び、リユースカップで映画をご鑑賞下さい！

小瀬エコスタジアムプロジェクト

2006エコキッズ大募集！

後援

NPO法人スペースふうと、(株)ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブでは、ホームゲームでのゴミを減らし、環境に優しいスタジアム作りを目指してきました。

この取り組みは「小瀬エコスタジアムプロジェクト」という名前で、2003年11月より使い捨ての「紙コップ」から何度でも洗って使える「リユースカップ」に切り替え、これまでに79,000個の使い捨てカップを減らすことができました。

2006年、サッカーJリーグ1部に昇格したヴァンフォーレ甲府の小瀬エコスタジアムプロジェクトを、たくさんの皆さんに知ってもらい、ゴミのないきれいなスタジアムを作るために、小瀬でのホームゲームにおけるリユースカップの運営とPR活動をお手伝いくださる「エコキッズ」の募集をいたします。みなさんのご応募をお待ちしております。

募集人員：小学校高学年から中学生

（高校生以上は別途エコボランティアとして募集）

募集人数：10名～1クラス位まで 保護者1名以上が同伴をお願いします。

作業内容：・入り口でのリユースカップ利用の呼びかけ

・ハーフタイムで横断幕をもってリユースカップ利用の呼びかけ

・試合終了後のリユースカップ回収作業



●お問い合わせ・お申し込み●

小瀬エコスタジアムプロジェクト事務局
NPO法人スペースふう
TEL：0556-22-1150 FAX：0556-22-1862
E-mail：info@spacefuu.net

3月5日（日）の開幕戦では、石田スポーツ少年団サッカー部の皆さんに協力してもらい、約5,600個のリユースカップ・食器が使用されました！

「リユース食器」の導入によるゴミ減量化への取り組みについて

商工会連合会

商工会連合会ではイベント等で発生するゴミの減量化への取り組みとして、平成16年度から「リユース食器」（カップのみ）を試験的に導入してきました。

今年度は小瀬スポーツ公園で開催した「商工会むらおこし物産展」（平成17年10月15日・16日開催）において会場全体で「リユース食器」を導入し、その結果として本イベントで発生したゴミが前年度74立方メートルから38立方メートルに減少という大きな成果を得ることが出来ました。

「商工会むらおこし物産展」で行った実施方法はつぎのような、デポジット方式によるものでした。

1. 消費者が生ビールやうどん等を購入する際に、販売代金に加えて容器の利用料（デポジット金）を支払う。
2. 消費者が使用した容器を回収所に返却すると利用料（デポジット金）が戻る。

（返却しない場合の利用料は新規容器の購入費等に充当する）

このように容器を返却しないと利用料が戻らないシステムの活用と、目の前で「廃棄ではなく、もう一度使う」という体験をしてもらうことにより、消費者に3R（Reduce（減らす）・Reuse（もう一度使う）・Recycle（再利用する））の意識を持つことと、ゴミの減量化を実践することで、環境保全への取り組みを促進することが出来ました。

しかし、今回の取り組みを通じて、「他の方法はないのか」、「誰がその費用を負担するべきか」など今後解決する必要がある課題も浮上してきました。いずれにせよ、ゴミの減量化を含めた環境保全への取り組み自体、始まったばかりでまだまだ未成熟の感があり、こうした活動や環境への配慮が定着するように取り組みを続けてゆく必要があります。



続報

第20回

牛乳パックの再利用を考える全国大会

大会テーマ

「はじめの一步はもったいない 発祥の地からつなぐじゃん！」

日時：平成18年7月29日（土）、30日（日） 場所：甲府市総合市民会館

3月14日に牛乳パック回収運動発祥の地、山梨での20回大会に向けて、第4回目の実行委員会を行いました。

大会1日目は「100人村からつなぐ 自然・くらし・いのち」として、「世界がもし100人の村だったら」の翻訳者として有名な池田香代子さんに記念講演をいただきます。また2日目には「循環型社会」「教育・子育て」「食と農」「福祉・協同」など様々な視点からの分科会を行ないます。また、子ども向け企画として、簡単なリサイクル工作などの実施も検討中です。

実行委員会では牛乳パック回収運動のはじまりの「自然・くらし・いのち」「もったいない」「ともに生きる」という想いを生かした大会にすべく、さらに多くの皆さんの協力と参画を引き続き募集しております。

現在、山梨県、甲府市、山梨県社会福祉協議会などから後援をいただき、さらに後援申請を行なっております。また協賛金の受け付けを企業・団体・個人を問わず広くお願いしております。ぜひご協力をよろしくお願いたします。

協賛金お振込先

企業・団体：1口1万円 個人：1口5千円
◆銀行振込…山梨中央銀行 中央市場支店 普通 391080
牛乳パックの再利用を考える全国大会山梨大会事務局
会計担当 小沢浩二
◆郵便振替…口座番号：00200-5-113919
口座名称：牛乳パックの再利用を考える全国大会事務局

●問い合わせ先●

第20回牛乳パックの再利用を考える
全国大会実行委員会事務局
TEL：055-243-6433 FAX：055-243-6359
E-mail：pack-20th@hss-web.jp
HP：http://pack-20th.hss-web.jp/

後援

やまなし環境活動ネットワーク集会

(財) やまなし環境財団

平成18年1月28日(土)、アイメッセ山梨において、「やまなし環境活動ネットワーク集会」が開催されました。

●「若宮賞」表彰

県民の皆さんの自主的な環境保全への取り組みを育て、広く紹介することを目的に、県内各地で、優れた環境保全活動を継続して行っている個人や民間団体を表彰します。

〔団体〕

- ・甘利山倶楽部(韮崎市)
- ・櫛形西小緑の少年少女隊(南アルプス市)
- ・南アルプス市小笠原区(南アルプス市)

〔個人〕

- 伊藤 嵐さん(甲府市)
- 鈴木 伸介さん(北杜市)
- 望月 初子さん(甲斐市)

●「感謝状」贈呈

平成16年度に、「民間団体の環境保全活動を支援するための資金」として御寄付をいただいた団体の皆さんの善意に感謝し、感謝状をお贈りします。(敬称略)

- ・社団法人 山梨県トラック協会女性部会
- ・山梨県商工会女性部連合会

●「環境保全活動リレーセミナー」発表

今年度新しく設置された山梨県地球温暖化防止活動推進センターと、4つの団体の皆さんに、各団体の活動内容、PRしたいこと、活動するうえでの課題などを自由に発表していただくものです。また、会場の皆さんと一緒に意見交換を行い、参加者相互のネットワークづくりを促進するものです。

当日は、100名を超える方々が参加してくださり、活発に意見が交わされました。中でも、市町村担当者が環境教育分野でNPOとの協働について発言する姿や、資金面・モチベーションの維持等、活動する上での問題点を発表し、解決策を提示しあう場面が印象的でした。

<発表団体>

- ☆山梨県地球温暖化防止活動推進センター
環境教育に関する活動
- ☆こどもエコライフネット
- ☆NPO法人 ホールアース研究所
リサイクル・自然エネルギーの活用に関する活動
- ☆特定非営利活動法人 みどりの学校
- ☆生活協同組合 コープやまなし



主催者として参加

2月は「ボランティア・NPO活動推進月間」です

県企画部県民生活課

ボランティア・NPO活動は、特定の人や団体に与えられた特別な活動ではなく、志があれば誰にでもできる活動です。

現在、人とのつながりが希薄になるなかで、やりたいことができず困っている人がいます。社会が要求しているサービスに行政だけでは対応できず、悩んでいる人がいます。他人へのちょっとした「思いやり」を行動に移すのがボランティア・NPO活動です。

今、ボランティア・NPO活動は、みんなが楽しく生活していくために、なくてはならない活動になっています。山梨県も含め、全国各地で活発に活動が行われています。

推進月間の2月には、1日(水)の甲府駅前も含め、県内3か所で街頭キャンペーンを実施しました。



廃棄物処理施設に行ってきました

東山梨地域 環境パートナーシップ会議



地球温暖化防止推進事業の一環で、1月18日（水）に、斐崎市にある「エコパークたつおか」の廃棄物処理施設を見学してきました。

企画当初は参加者がどのくらい集まるか不安でしたが、募集してみると大勢の方に参加して頂き、当日は42名で行ってきました。

最初にエコパークの所長さんから施設の概要を説明して頂き、その後施設の見学をしました。皆さん、真剣に所長さんの説明を聞き、質問も活発にされていました。

この施設はキルン式ガス化溶融炉で、ごみは熱分解されて燃焼溶融炉でスラグ化されている施設でした。また、プラント運転のための発電や余熱利用及び溶融スラグ化による再資源化利用が図られていました。スラグ化された廃棄物が、資源として路盤材、アスファルト用骨材などに再利用されていることに、皆さん関心があったようです。

研修後のアンケートでは、

- ・自分自身、もっと勉強しなければいけないと思った。
- ・東山地域もこの様な施設が出来ればいいと思う。
- ・ごみ問題は、自分たちの事として認識を改めなくてはならないと思う。
- ・少しでもごみの減量に努めたい。
- ・最新のごみ処理施設の様子がわかった。
- ・本日の研修を地域の方に教えてあげたい。



などの感想がありました。

「地球温暖化はこれから避けて通れない私たちの課題」「各自がごみの減量化に努力すること、ごみを出さないようにすることが大切」などの意見もでました。

日常の中でごみを減らすことはなかなか大変かもしれませんが、一人ひとりの心がけで少しでも減らせたらと思います。

今回の研修を通して、ごみ問題は身近な問題であり、ごみの減量の必要性を再認識されたことと思います。

私たちは、今後も地道な活動を行い、一人でも多くの方に関心をもって頂けるように活動をしていきたいと思っています。



●投稿募集中

I. 会員紹介コーナー【投稿要領】

- ①スペースはA5判程度で、500～600字の原稿と写真1枚です。
- ②団体等の名称、所在地（事務局または事務所等）、連絡先を必ずお書きください。
- ③内容は、活動紹介やPRなど自由ですが、他の団体、個人等の批判はしないでください。
- ④締め切りは特にありません。

II. 行事予定 【掲載内容】

- ①団体名、日時、場所、内容、申込み方法、連絡先等です。

【投稿先】

〒400-8501 甲府市丸の内一丁目6-1 山梨県森林環境部循環型社会推進課内 「環境パートナーシップやまなし」事務局
TEL 055-223-1506 FAX 055-223-1507